X-point

リモート入出力機能
導入・設定ガイド

2026/07/14 版

ATLED

はじめに

◆本書の目的
本書は X-point の「リモート入出力機能」の導入・設定手順を説明しています。
本書の内容をよくお読み頂いた上で、運用を行なってください。

◆対象とする読者
本書は「X-point」のシステム管理者を対象としています。システム管理者とは「X-point」を運用するにあたり必要な設定および基本データの作成、維持管理を行なう本システムの管理権限を持つユーザを指します。

◆対応バージョン（2026/07/14 時点）

X-point	備考
X-point v3.13	

◆製品名について
本書中、「X-point サーバー」は「X-point」と表記しています。
また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

◆商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。
X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。
Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc.の商標または登録商標です。Google、Google ロゴ、Google Apps、Google Apps Marketplace は、Google Inc.の登録商標または商標です。

◆製作著作
©2026 株式会社エイトレッド

目次／索引

1. **概要** 4
1.1. リモート入出力機能とは 4
1.1.1. リモート入力機能 4
1.1.2. リモート出力機能 4
1.2. リモート入出力バッチとは 5
1.3. リモート入出力バッチの動作要件 5
1.3.1. 実行可能な外部環境の OS 5
1.3.2. ネットワーク環境 5
2. **リモート入力機能の仕様** 6
2.1. アップロード可能な情報 6
2.1.1. 自動申請 6
2.1.2. マスタ 6
2.1.3. ユーザ 6
2.2. ファイルアップロード仕様 6
3. **リモート出力機能の仕様** 7
3.1. 出力可能な情報 7
3.1.1. クエリ 7
3.1.2. マスタ 7
3.1.3. ユーザ 7
3.1.4. 承認完了書類 PDF 7
3.2. ファイル出力仕様 7
3.2.1. クエリ、マスタ、ユーザ 7
3.2.2. 承認完了書類 PDF 9
4. **リモート入出力機能の共通仕様** 10
4.1. 接続ユーザ 10
4.2. 実行に必要な X-point ユーザの管理者権限 10
5. **事前準備** 11
5.1. X-point で実施する作業 11
5.1.1. 接続ユーザの準備 11
5.1.2. クエリの設定 11
5.1.3. 自動申請設定の登録 12
5.1.4. マスタインポートバッチの登録 12
5.1.5. ユーザインポートバッチの登録 12
5.2. 外部環境で実施する作業 12
6. **リモート入出力の実行** 13
6.1. リモート入出力バッチの入手 13
6.2. 接続設定 14
6.3. 実行権限の付与(Linux) 14
6.4. 実行方法 15
6.4.1. 直接実行する 15
6.4.2. スケジューラから実行する 16
6.5. 実行ファイルと引数の指定 21
6.5.1. リモート入力機能 21
6.5.2. リモート出力機能 24
6.6. 実行結果の確認 29
6.6.1. 実行履歴ログ 29
6.6.2. 実行ファイルの終了ステータス 29
6.6.3. タスクログ 30
7. **制限事項** 31
7.1.1. 大量のレコードの入出力 31
7.1.2. 同時実行の制限 31
7.1.3. クライアント証明書による SSL 通信 31
8. **その他** 32
8.1. クエリの CSV ファイル出力済み管理 32
8.1.1. 利用開始方法 32
8.1.2. CSV 出力済み書類の確認方法 32
8.1.3. CSV 出力済み書類を未出力に戻す方法 33
8.2. ZoneID の解除 34
9. **困ったときは** 35
9.1. クエリの出力で前回失敗した分の書類のレコードが CSV に含まれない 35

1. 概要

この章では、リモート入出力機能の概要について説明します。

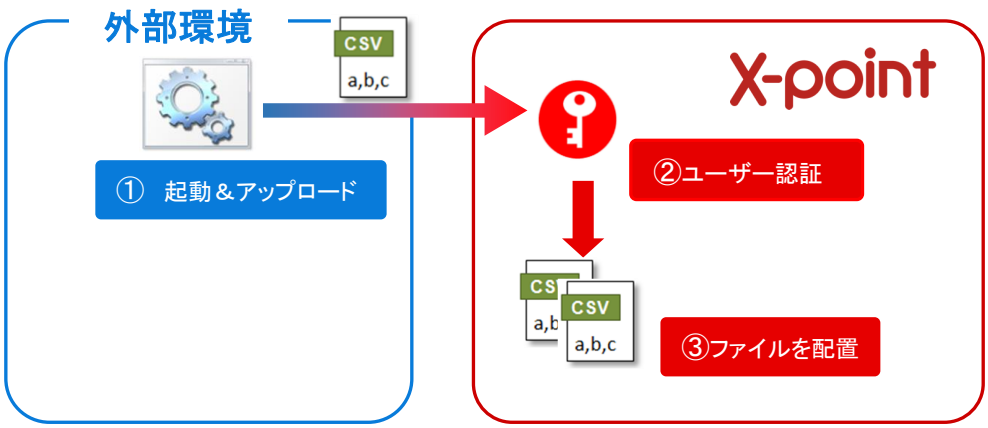
1.1. リモート入出力機能とは

専用の「リモート入出力バッチ」を外部環境から実行し、X-point の情報をアップロード、及びダウンロードすることができます。

1.1.1. リモート入力機能

「自動申請」、「マスタインポート」、「ユーザインポート」に利用する CSV ファイルを外部環境からアップロードすることができます。

▼動作イメージ

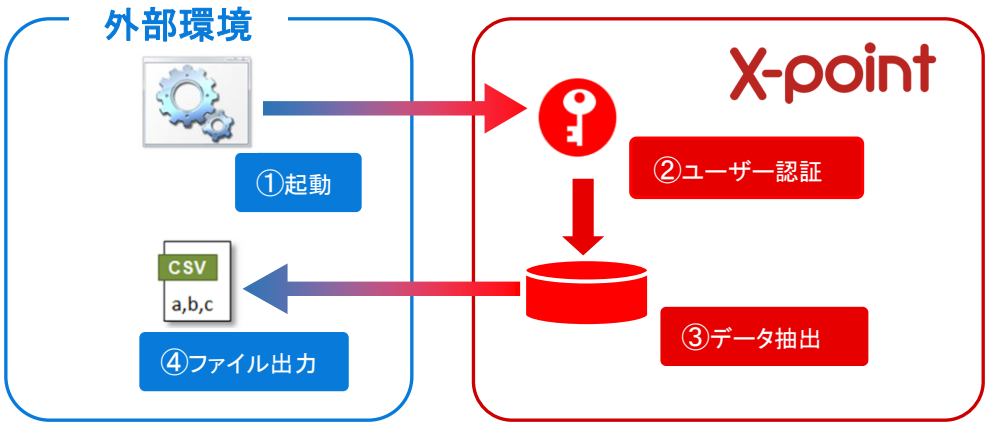


リモート入力機能では、X-point にアップロードした CSV ファイルのインポートの実行までは行いません。
CSV ファイルのインポートは、X-point の「自動申請」、「ユーザ固有マスタインポートバッチ実行」、「ユーザインポートバッチ実行」機能を利用してください。

1.1.2. リモート出力機能

「クエリ検索結果」、「ユーザ固有マスタ」、「ユーザ情報」、「承認完了書類 PDF」を外部環境にダウンロードすることができます。

▼動作イメージ



！注意事項

- 「承認完了書類 PDF」のダウンロードには、「承認完了書類書類外部出力オプション」が必要です。
- 「承認完了書類 PDF」のダウンロードは、クラスタ構成の X-point 環境には対応しておりません。

1.2. リモート入出力バッチとは

外部環境でリモート入出力を行うための専用モジュールです。

- X-point と HTTP(S)プロトコルで接続し、外部環境からファイルのアップロード、及びダウンロードを実現します。
- 「リモート入出力バッチ」は X-point のサポートサイトから ZIP 形式でダウンロードして入手します。

1.3. リモート入出力バッチの動作要件

リモート入出力機能をご利用いただくための制約事項を説明します。

1.3.1. 実行可能な外部環境の OS

■ Windows 系 OS (x86_64)
Windows Server 2025、Windows Server 2022、Windows Server 2019 、Windows Server 2016、Windows 11

■ Linux 系 OS (x86_64)
Red Hat Enterprise Linux 9 / Red Hat Enterprise Linux 8 / CentOS 8、Red Hat Enterprise Linux 7 / CentOS 7、
Amazon Linux 2023

■ Linux 系 OS (aarch64)
Amazon Linux 2023

！注意事項
サポートサイトにて公開中のスクリプトの提供開始時点に動作が確認されたオペレーティングシステムです。
最新情報はサポートサイトにて確認をお願いします。

1.3.2. ネットワーク環境

リモートコマンドを実行する端末（PC）より、X-point サーバーに対し HTTP あるいは HTTPS プロトコルで接続できる必要があります。
接続の可否は、リモートコマンドを実行する端末（PC）にてブラウザを利用し、X-point サーバーへのアクセス、及びログインができる事を確認する。もしくは、telnet 等でポート 80 番および 443 番の外向きの接続が可能であることを確認します。

2. リモート入力機能の仕様

この章では、リモート入力機能の仕様について説明します。

2.1. アップロード可能な情報

2.1.1. 自動申請

・ X-point の「自動申請機能」で取り込む CSV ファイルをアップロードすることができます。

2.1.2. マスタ

・ X-point の「ユーザ固有マスタインポートバッチ実行機能」で取り込む CSV ファイルをアップロードすることができます。
（※ 簡易マスタは対象外です）

2.1.3. ユーザ

・ X-point の「ユーザインポートバッチ実行機能」で取り込む CSV ファイルをアップロードすることができます。

2.2. ファイルアップロード仕様

本機能では以下の仕様でファイルをアップロードします。

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>仕様</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">ファイル形式</td><td>CSV</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ファイル名</td><td>X-point 側のバッチ設定で指定した
CSV ファイル名</td><td>・アップロード先に配置される CSV ファイル名</td></tr>
<tr><td colspan="2">アップロード先に CSV ファイルが既に存在する場合の動作(※1)</td><td>以下の何れかを指定可能
・上書きしない
・上書きする</td><td>・アップロード先に CSV ファイルが既に存在する場合の動作</td></tr>
<tr><td rowspan="3">アップロード単位
(※1)</td><td>自動申請</td><td>1フォーム</td><td rowspan="3">・1 回の実行でアップロード可能な情報の単位。</td></tr>
<tr><td>マスタ</td><td>1マスタ</td></tr>
<tr><td>ユーザ</td><td>ユーザ/グループ/役職/ユーザグループ/ロール/ユーザロールの内、何れか 1 つ</td></tr>
</table>

※1 ： バッチ実行コマンドの引数で指定可能です。設定方法の詳細は『実行ファイルと引数の指定』を参照してください。
※2 ： リモートコマンドによるファイルアップロードでは、アップロードファイルのサイズ制限は指定されていません。
コマンド実行時の、ご契約容量の空きが最大サイズになります。但し、空き容量の限界迄利用すると X-point サーバーの他機能で動作上の問題が発生する可能性がありますので、十分な空き容量を保った範囲でご利用下さい。

3. リモート出力機能の仕様

この章では、リモート出力機能の仕様について説明します。

3.1. 出力可能な情報

3.1.1. クエリ

・ クエリ検索を実行し、その結果を出力することができます。
（※ ユーザサイトで作成できる「マイクエリ」は対象外です)

・ バッチ実行のタイミングでクエリ検索が行われます。

・ クエリ管理画面からリモート出力「する」に設定したクエリのみ出力可能です。

3.1.2. マスタ

・ X-point に作成したユーザ固有マスタのレコードを出力することができます。
(※ 簡易マスタは対象外です)

3.1.3. ユーザ

・ X-point のユーザ情報(ユーザ、ユーザグループ、役職)を出力することができます。

3.1.4. 承認完了書類 PDF

・ X-point サーバーに保存された承認完了書類の PDF ファイル(添付ファイル、索引ファイルを含む)を出力することができます。

3.2. ファイル出力仕様

本機能では以下の仕様でファイルを出力します。

3.2.1. クエリ、マスタ、ユーザ

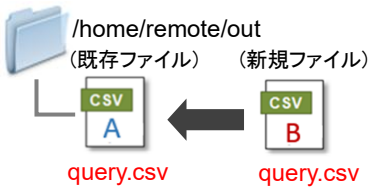
<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>仕様</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">ファイル形式</td><td>CSV</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">文字コード
（※1）</td><td>Shift-JIS または UTF-8</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">改行コード</td><td>クエリ</td><td>CRLF</td><td></td></tr>
<tr><td>マスタ</td><td>LF</td><td></td></tr>
<tr><td>ユーザ</td><td>LF</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">タイトル行
（※1）</td><td>任意</td><td>・タイトル行(1 行目)の出力有無。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ファイル名
（※1）</td><td>任意</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">出力先パス
（※1）</td><td>任意</td><td>・リモート出力バッチを実行する外部環境の任意のパス。</td></tr>
<tr><td colspan="2">レコード 0 件の場合のファイル出力
（※1）</td><td>任意</td><td>・X-point のデータ抽出の結果、レコードが 0 件の場合に空のファイルを出力する/しない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">同名ファイルが存在する場合の動作
（※1）</td><td>以下の何れかを指定可能
・上書きしない
・上書きする
・既存ファイルを指定パスに移動する(※2)</td><td>・ファイルの出力時に、同じ名称のファイルが既に存在する場合の振る舞い。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出力単位
（※1）</td><td>クエリ</td><td>1 クエリ
または複数クエリ</td><td rowspan="3">・1 回の実行で出力可能な情報の単位。</td></tr>
<tr><td>マスタ</td><td>1 マスタ</td></tr>
<tr><td>ユーザ</td><td>ユーザ、ユーザグループ、役職の何れかまたは全て</td></tr>
</table>

※1 ： バッチ実行コマンドの引数で指定可能です。設定方法の詳細は『実行ファイルと引数の指定』を参照してください。
※2 ： 同名ファイルが存在する場合の制御として「既存ファイルを指定パスに移動する」を指定した場合、下記の動作イメージとなります。

【前提となる設定】

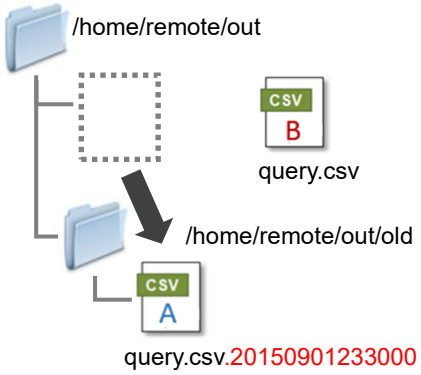
出力先パス	/home/remote/out
ファイル名	query.csv
既存ファイルの移動先パス	/home/remote/out/old

① 同じ名称のファイルが既に存在する。

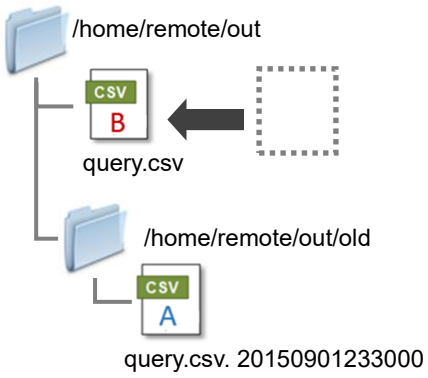


② 既存ファイルを指定パスに移動する。

移動されたファイルはファイル名の後ろに「年月日時分秒」が付きます。
→ {CSV ファイル名}.csv.YYYYMMDDHHmmss
（例）query.csv の出力が 2015 年 9 月 1 日 23 時 30 分 00 秒に実行された場合 → query.csv.20150901233000



③ 新規ファイルを出力する。



3.2.2. 承認完了書類 PDF

項目	仕様	備考
出力ファイル形式	・サーバー上と同じフォルダ構成で「PDF」「索引ファイル」「書類の添付ファイル」を出力します。 ・索引ファイルは CSV 形式で出されます。	
文字コード	Shift-JIS	(索引ファイル)
改行コード	CRLF	(索引ファイル)
出力先パス (※1)	任意	・リモート出力バッチを実行する外部環境の任意のパス。
レコード 0 件の場合のファイル出力 (※1)	任意	・X-point のデータ抽出の結果、レコードが 0 件の場合に空のファイルを出力する/しない。
同名ファイルが存在する場合の動作	上書き	・ファイルの出力時に、同じ名称のファイルが既に存在する場合の振る舞い。
出力単位 (※1)	1 書類、または複数書類	・1 回の実行で出力可能な情報の単位。

※1 ： リモート出力バッチの実行時に指定可能です。設定方法の詳細は『実行ファイルと引数の指定』を参照してください。

【ダウンロード階層のイメージ】
例：管理者サイト＞ドメイン管理＞ドメイン設定＞書類外部出力の「フォルダ構成」が”標準”の場合

```
{指定フォルダ} ┬ index.csv
               └ {フォーム CD}_{フォーム ID}  ┬ 2000-2999 ┬ index.csv
                                             │           ├ 2565    ┬ 2565.pdf
                                             │           │         ├ logo.jpg
                                             │           │         └ zipcode.csv
                                             │           ├ 2566    ─ 2566.pdf
                                             ├ 3000-3999 ┼ index.csv
                                             │           ├ 3013    ┬
                                             │           │
```

！注意事項

- 「承認完了書類 PDF」のダウンロードには、「承認完了書類書類外部出力オプション」が必要です。
  該当オプションの機能については、マニュアル『承認完了書類外部出力オプション 導入・設定ガイド』を参照してください。
- 「承認完了書類 PDF」のダウンロードは、クラスタ構成の X-point 環境には対応しておりません。
- X-point の管理者サイト→ドメイン設定→承認完了書類外部出力オプションの設定で
  PDF ファイルの「ファイル名」、「ファイル保存先」、「フォルダ構成」を変更した場合、変更前の保存パスに出力されたファイルはダウンロード出来なくなります。
- 承認状況が「承認完了」の書類のファイルのみダウンロードが可能です。

4. リモート入出力機能の共通仕様

この章では、リモート入出力機能の共通仕様について説明します。

4.1. 接続ユーザ

・リモート入出力バッチの設定ファイルで X-point との接続設定が必要です。
・接続設定では「接続ユーザ」として X-point のドメインに所属するユーザ X-point 上のユーザを指定します。
・「接続ユーザ」が所属する所属するドメインの情報のみ入出力可能です。

4.2. 実行に必要な X-point ユーザの管理者権限

「接続ユーザ」は入出力する情報に応じた以下の管理者権限を保有している必要があります。

入出力情報	必要権限
クエリ	クエリ管理
マスタ(入力/出力)	マスタ管理
ユーザ(入力/出力)	ユーザ管理
自動申請	フォーム管理
承認完了書類 PDF	承認管理

5. 事前準備

この章では、リモート入出力を行うための事前準備について説明します。

5.1. X-point で実施する作業

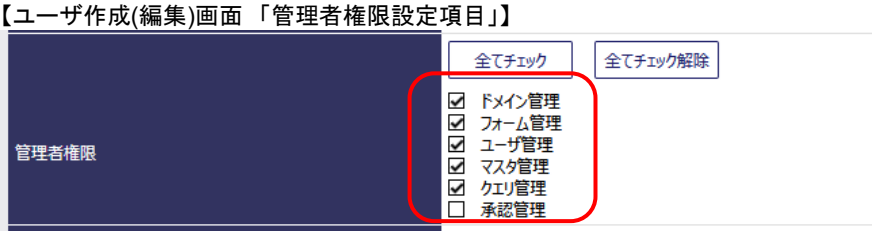
5.1.1. 接続ユーザの準備

リモート入出力機能では外部環境から X-point に接続するための認証情報として、X-point ユーザのドメイン情報が必要です。

1) 【ユーザ作成画面】(管理者サイト＞ユーザ管理＞ユーザに遷移
して、リモート入出力用のユーザを新規作成画面、または既存ユーザの編集画面を表示します。

2) 入出力する情報に応じた「管理者権限」をチェックして保存します。

【ユーザ作成(編集)画面 「管理者権限設定項目」】



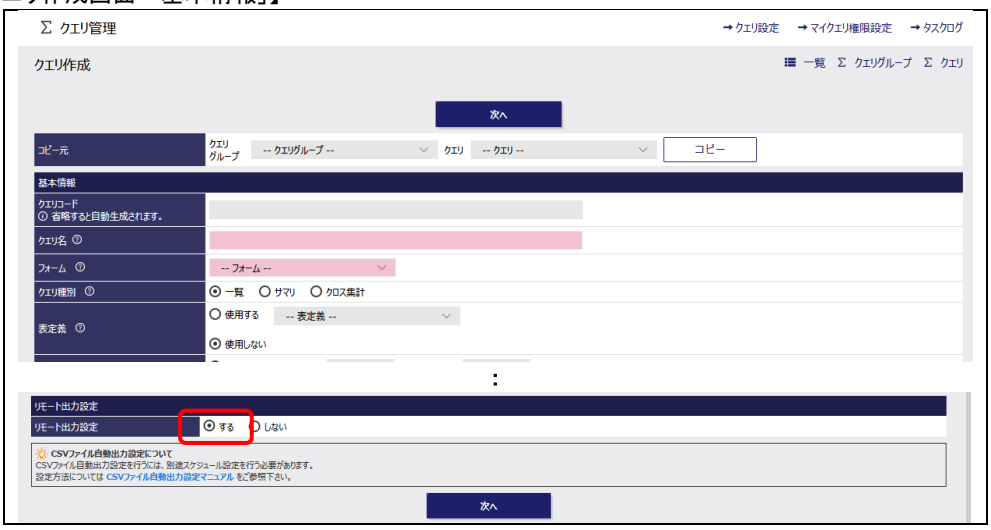
5.1.2. クエリの設定

「クエリ出力」をリモート入出力機能から実行する場合、管理者サイトのクエリ管理機能でリモート出力の設定を行います。
本書では、リモート出力に関連する設定部分を中心に説明します（下図「クエリ作成ウィザードの流れ」の①、②の部分）。
クエリの作成方法につきましては管理者マニュアルの「クエリ管理」の章を参照ください。

【クエリ作成ウィザードの流れ】

1) リモート出力設定
管理者サイト＞クエリ管理＞クエリ＞【クエリ作成画面】に遷移して、
「リモート出力」の項目で「する」を選択することで、リモート出力機能によるクエリ検索結果の出力が可能になります。
(初期値は「しない」となっています)

【クエリ作成画面「基本情報」】



2)　抽出条件設定

一覧クエリの設定で「リモート出力」を「する」を選択すると、抽出条件設定で「CSV ファイルへ未出力の書類」が指定可能にになります。この抽出条件を設定した場合、(※) リモート出力機能で CSV 出力された書類は「出力済み」となり、次の実行から出力されないようになります。

【クエリ作成画面 (抽出条件設定)】
▼CSV に未出力の承認完了書類を出力する場合の設定例

※【クエリ作成画面 (基本情報)】 の設定項目「CSV ファイル出力済み管理」で、「クエリ機能で出力された書類を全て出力済みにする」を選択すると、Web 画面から CSV 出力した場合も「出力済み」とすることができます。

※ 一度 CSV「出力済み」になった書類は、承認完了後の再申請を実施しても「未出力」にはなりません。
（承認完了後の再申請機能の詳細については『管理者機能マニュアル』を参照してください。）

5.1.3.　自動申請設定の登録

「自動申請」機能で取り込む CSV ファイルをリモート入出力機能からアップロードする場合、事前に X-point 側に自動申請設定を登録しておく必要があります。手順は『管理者機能マニュアル　～自動申請～』の「自動申請の設定」の章を参照してください。

5.1.4.　マスタインポートバッチの登録

「ユーザ固有マスタインポートバッチ実行」機能で取り込む CSV ファイルをリモート入出力機能からアップロードする場合、事前に X-point 側にマスタインポートバッチを登録しておく必要があります。手順は『管理者機能マニュアル　～ユーザ固有マスタ自動インポート～』の「ユーザ固有マスタインポートバッチ実行の設定」の章を参照してください。

5.1.5.　ユーザインポートバッチの登録

「ユーザインポートバッチ実行」機能で取り込む CSV ファイルをリモート入出力機能からアップロードする場合、事前に X-point 側にユーザインポートバッチを登録しておく必要があります。手順は『管理者機能マニュアル　～ユーザインポートバッチ実行～』の「ユーザインポートバッチ登録の設定」の章を参照してください。

5. 2.　外部環境で実施する作業

リモート入出力バッチを入手し、接続設定、実行権限の付与等を行います。
詳細は『リモート入出力の実行』の章をご参照ください。

6. リモート入出力の実行

この章では外部環境で行うリモート入出力の実行手順について説明いたします。

6.1. リモート入出力バッチの入手

1. サポートサイトより zip ファイルをダウンロードします。

   ！注意事項
   Windows 環境で利用する場合は、zip ファイルの解凍前に「ZoneID の解除」を行う必要があります。
   本書の『ZoneID の解除』の説明に従い実施してください。

2. リモート入出力を実行する外部環境に配置・展開します。
   zip ファイルを展開すると「xpoint-client」というディレクトリが生成されます。

【xpoint-client の構成】

xpoint-client 以下のディレクトリ	ファイル	備考
bin/	-	リモート入出力バッチの内部モジュール
conf/	remote_env.bat(sh)	X-point との接続情報設定ファイル
log/	-	実行履歴ログ出力ディレクトリ
-	run_lumpapply.bat(sh)	実行ファイル　(自動申請)
	run_master_exp.bat(sh)	実行ファイル　(マスタ/出力)
	run_master_imp.bat(sh)	実行ファイル　(マスタ/入力)
	run_pdfout.bat(sh)	実行ファイル　(承認完了書類 PDF 出力)
	run_query.bat(sh)	実行ファイル　(クエリ)
	run_user_exp.bat(sh)	実行ファイル　(ユーザ/出力)
	run_user_imp.bat(sh)	実行ファイル　(ユーザ/入力)

6.2. 接続設定

「xpoint-client /conf/remote_env.bat(sh)」を実行環境に合わせ編集し、X-point サーバーに接続するための設定を行います。
イコール記号(=)の右側の赤字箇所を書き換えてください。

▼ファイル例：remote_env.bat

```
REM 接続先サーバーを指定してください
SET XPOINT_URL=https://example.atledcloud.jp/xpoint

REM ドメインコードを指定してください
SET LOGIN_DOMAIN=domain

REM ログイン ID を指定してください
SET LOGIN_USER=user

REM パスワードを指定してください
SET LOGIN_PASS=password
・・・
```

【設定項目】

設定項目	必須	説明	設定例
XPOINT_URL	○	X-point の接続 URL を指定します。	https://example.atledcloud.jp/xpoint
LOGIN_DOMAIN	○	接続する X-point ユーザのドメインコードを指定します。	domain
LOGIN_USER	○	接続する X-point ユーザのログイン ID を指定します。	user
LOGIN_PASS	○(※1)	接続する X-point ユーザのパスワードを指定します。	password
HTTP_PROXY		プロキシ接続する場合は"true"を指定します。	true
HTTP_PROXY_HOST	△(※2)	プロキシサーバーのホスト名(IP アドレス)を指定します。	example.com
HTTP_PROXY_PORT	△(※2)	プロキシサーバーのポート番号を指定します。	8080
HTTP_PROXY_USER	(※3)	プロキシサーバーの認証ユーザを指定します。	proxyuser
HTTP_PROXY_PASS	(※3)	プロキシサーバーの認証パスワードを指定します。	password

※1 ： X-point で LDAP 連携を利用している場合は連携先システムのパスワードを指定してください。
また、X-point で各種グループウェア連携を利用しており、リモート入出力機能の接続ユーザに固有のパスワードを設定していない場合は、X-point 管理者サイトのユーザ管理、またはユーザサイトの個人設定からパスワード設定の上、設定値を指定します。
※2 ： プロキシ接続する場合(HTTP_PROXY=true)のみ必須項目となります。
※3 ： プロキシ接続で BASIC 認証を行う場合のみ指定します。

6.3. 実行権限の付与(Linux)

Linux 環境の場合、「xpoint-client」配下に実行権限を与えます。

(/home/remote に「xpoint-client」を展開した場合のコマンド実行例)

```
# cd /home/remote
# chmod -R +x xpoint-client
```

6.4. 実行方法

！注意事項

- CSV ファイル名やファイルパスに全角文字を使用した場合正常に動作しない場合がありますので、ファイル名、ファイルパスには半角英数字のみを使用することを推奨いたします。
- 実行ユーザは、リモート入出力バッチから参照する出力パス、移動先パスなどのディレクトリやファイルに対して、読み取り権限、書き込み権限を保有する必要があります。

・

6.4.1. 直接実行する

実行ファイルを直接起動して実行する場合は以下の流れになります。

※ 各入出力情報に応じた「実行ファイル」「引数」「引数指定例」については、
本書の『実行ファイルと引数の指定』の説明を参照してください。

【Windows】

1) コマンドプロンプトを開きます。
2) 実行ディレクトリへ移動します。(C:¥remote に「xpoint-client」を展開した場合)

```
>cd C:¥remote¥xpoint-client
```

3) 実行ファイルに引数を渡して起動します。(クエリを実行する場合)

```
> run_query.bat {引数}
```

【Linux】

1) 実行ディレクトリへ移動します。(/home/remote に「xpoint-client」を展開した場合)

```
# cd /home/remote/xpoint-client
```

2) 実行ファイルに引数を渡して起動します。(クエリを実行する場合)

```
# run_query.sh -dir {引数}
```

6.4.2. スケジューラから実行する

定期的に実行する場合はスケジュール設定を行います。

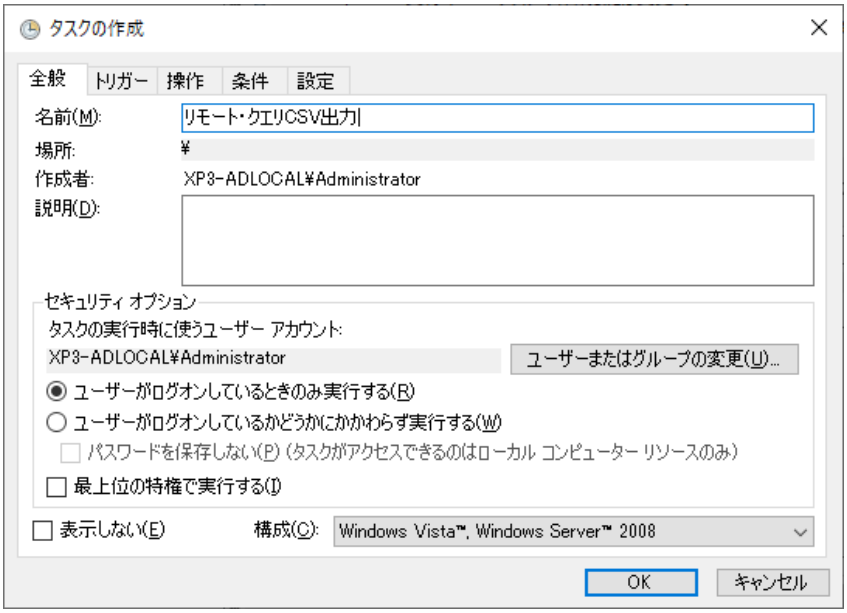
※ 各入出力情報に応じた「実行ファイル」「引数」「実行例」については『実行ファイルと引数の指定』の説明を参照してください。

＜Windows の場合＞

コントロールパネルやサーバーマネージャから「タスク スケジューラ」を起動し、タスクウィザードでスケジュール設定を行ってください。
「操作」を「プログラムの開始」とし、「引数の追加」の項目に引数を入力します。

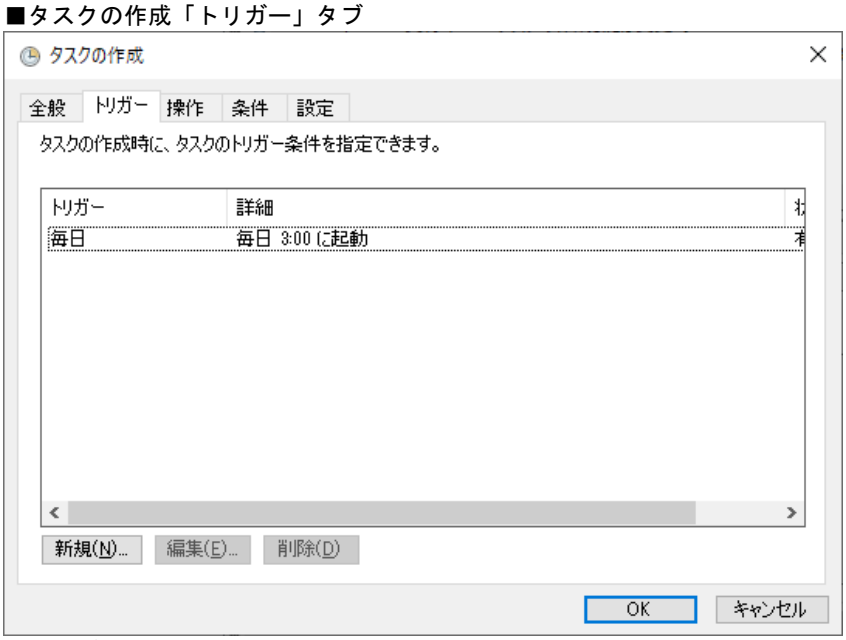
▼Windows タスク設定

■タスクの作成「全般」タブ

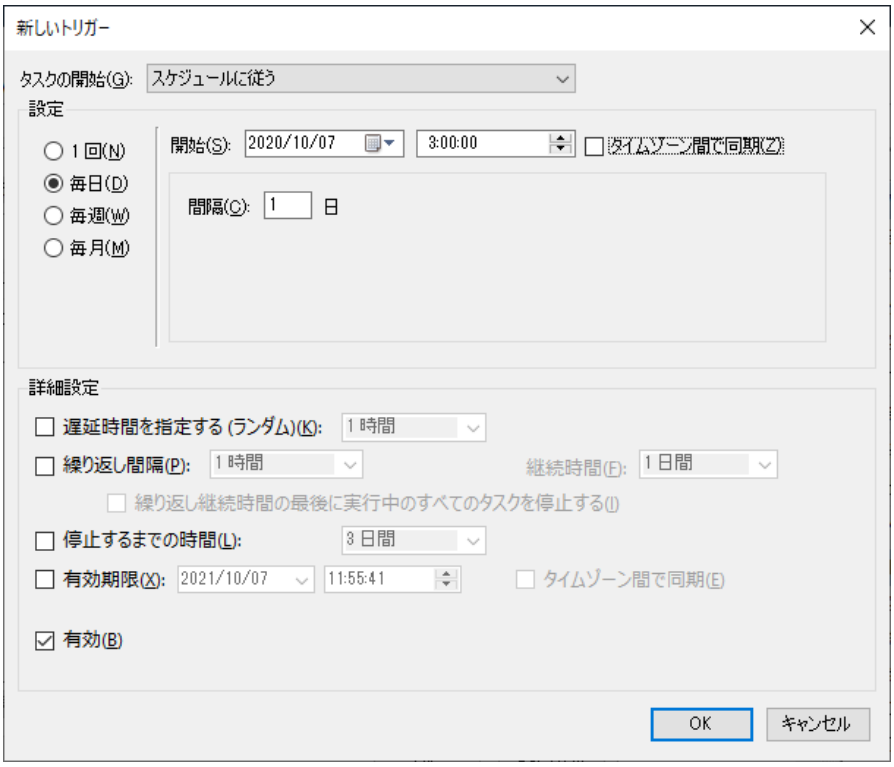


- 名前　：　「リモート・クエリ CSV 出力」など
- セキュリティ・オプション
  - ユーザー アカウント　：　X-point が稼働するサーバーの「Administrator」を指定します。
  - 「ユーザーがログオンしているかどうかに関わらず実行する」をチェック
  - パスワードを保存しない　：　チェックを外す
  - 最上位の特権で実行する　：　チェックを外す
  - 最上位の特権で実行する　：　チェックを外す
  - 表示しない　：　チェックを外す
  - 構成　：　Windows Vista, Windows Server 2008

■タスクの作成「トリガー」タブ

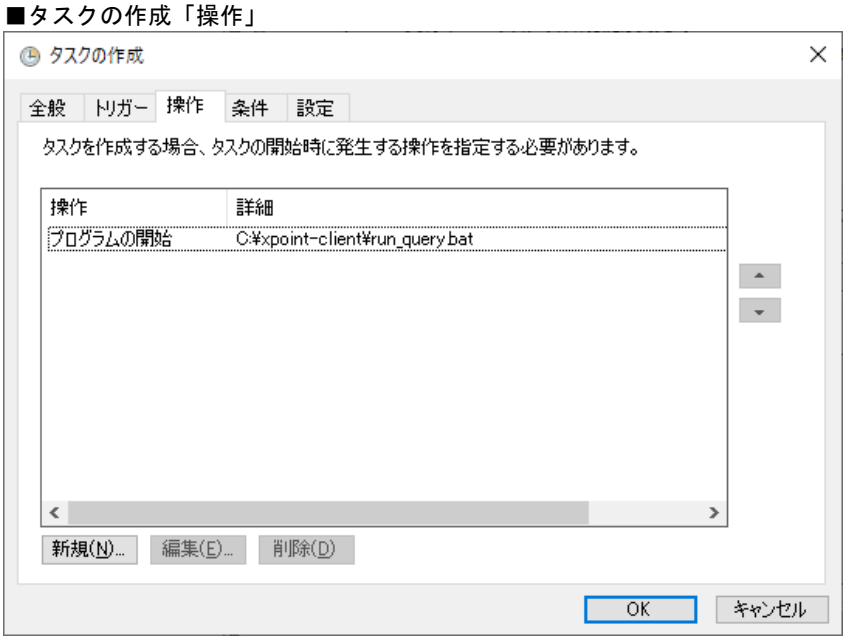


「トリガー」の「新規」をクリックします

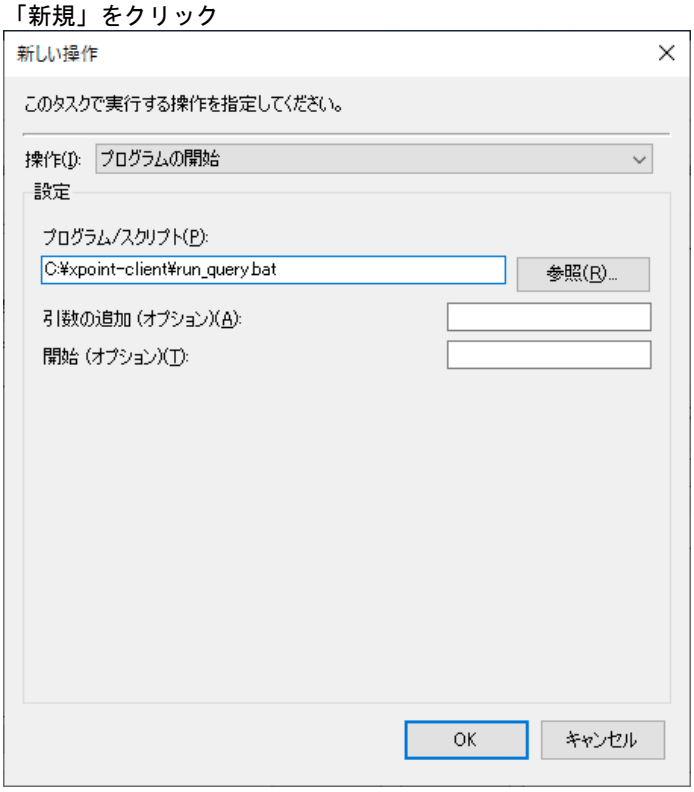


- タスクの開始
  「スケジュールに従う」
- 設定
  毎日、開始「1:00:00」、間隔「１日」など
  他タスクも実行する場合は時間が重ならないよう調整してください。
- 詳細設定
  遅延時間を設定する　：　オフ
  繰り返し間隔　：　オフ
  停止するまでの時間　：　オフ
  有効期間　：　オフ
  有効　：　チェック

■タスクの作成「操作」

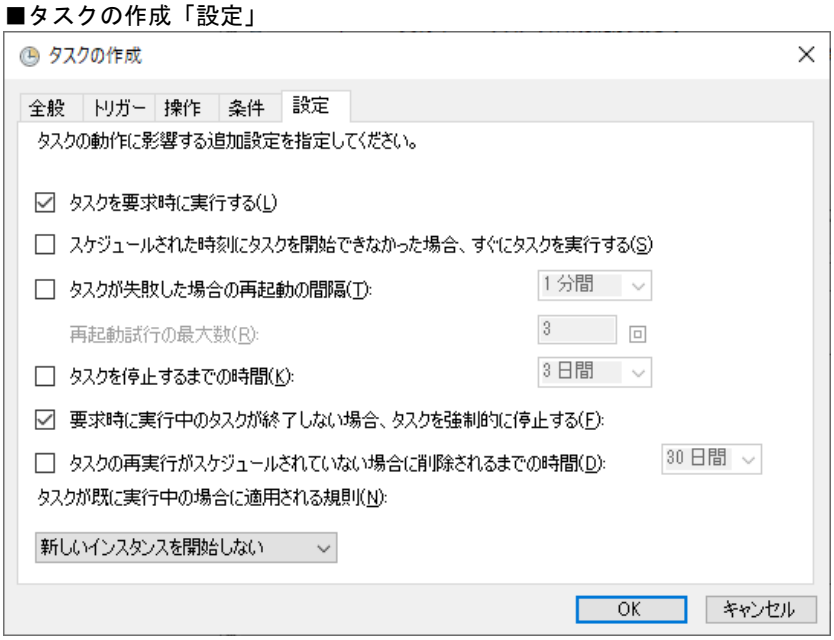


「新規」をクリック



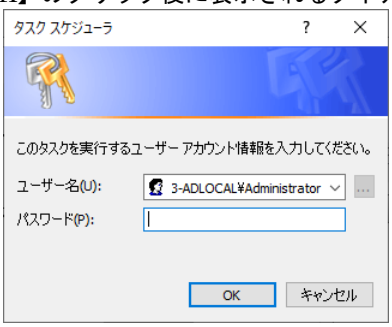
- 種類　：　　プログラムの開始
- プログラム／スクリプト：
  （例）C:¥xpoint-client¥run_query.bat
  ※ を C:¥xpoint-client に導入した場合の例
- 引数の追加　：　実行する内容に合わせます
- 開始　：　指定無し（空欄）

■タスクの作成「設定」

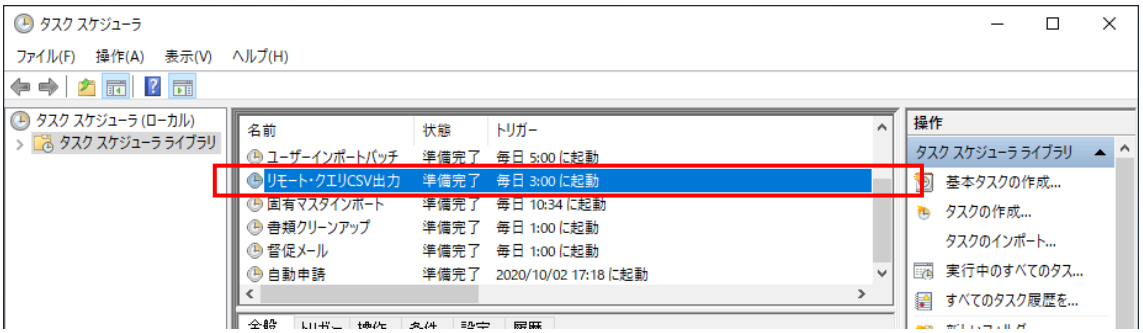


- タスクを要求時に実行する　：　チェックする
- スケジュールされた時刻にタスクを開始できなかった場合、すぐにタスクを実行する　：チェック外す
- タスクが失敗した場合の再起動間隔　：　チェック外す
- タスクを停止するまでの時間　：　チェック外す
- 要求時に実行中のタスクが終了しない場合、タスクを強制的に中止する　：　チェックする
- タスクの再実行がスケジュールされていない場合に削除されるまでの時間　：　：　チェック外す
- 体躯が既に実行中の場合に適用される規則　：　「新しいインスタンスを開始しない」

【OK】のクリック後に表示されるダイアログにて実行ユーザーのパスワードを入力します。



タスクスケジューラに「リモート・クエリ CSV 出力」が追加されます。



＜Linux の場合＞

crontab コマンドで、スケジュール設定を行ってください。

▼Linux crontab 設定例

```
0 1 * * * /home/remote/xpoint-client/run_query.sh {引数} >/dev/null 2>&1
```

(例は/home/remote に「xpoint-client」を展開し、クエリを実行する場合を前提としています。)

6.5. 実行ファイルと引数の指定

6.5.1. リモート入力機能

■ 自動申請

【実行ファイル】
run_lumpapply.bat(sh)

【引数】

引数名	必須	説明	指定例
target	○	・アップロード先の自動申請名称を指定します。 ・名称にスペースが含まれる場合は「” 」で囲みます。	-target ″交通費精算書 1″
file（※1）	○	・アップロードする CSV ファイルのパスを指定します。	(Linux) -file /home/xpclient/example.csv (Windows) -file C:¥xpclient¥example.csv
overwrite		・アップロード先に自動申請用の CSV ファイルが既に存在する場合の動作を指定します。 「0」...上書きしない 「1」...上書きする ・未指定の場合は「0」で動作します。	-overwrite 1

※1 ： アップロードした CSV は X-point の自動申請設定で指定した「ファイル名」に自動でリネームされて X-point 上に保管されます。
X-point の自動申請設定で指定した「文字コード」で保存された CSV ファイルを使用してください。

【実行例】

※ ファイルやパス Windows を前提としています。Linux の場合は適宜読み替えてください。

・ 「自動申請：交通費精算書」に CSV(C:¥xpclient¥example.csv)をアップロードし、既にファイルが存在する場合は上書きする。
run_lumpapply.bat -target "新しい自動申請"　-file C:¥xpclient¥example.csv -overwrite 1

■　マスタ

【実行ファイル】
run_master_imp.bat(sh)

【引数】

引数名	必須	説明	指定例
target	○	・アップロード先のマスタ名称です。 X-point の「ユーザ固有マスタインポート バッチ」登録画面の「マスタ名」を指定します。 ・名称にスペースが含まれる場合は「”」で囲みます。	-target "担当者マスタ 1"
file (※1)	○	・アップロードする CSV ファイルのパスを指定します。	(Linux) -file /home/xpclient/example.csv (Windows) -file C:¥xpclient¥example.csv
overwrite		・アップロード先に同名のファイルが存在する場合の動作を指定します。 「0」…上書きしない 「1」…上書きする ・未指定の場合は「0」で動作します。	-overwrite 1

※1 ： アップロードした CSV は X-point のユーザ固有マスタインポート バッチ登録画面で指定した「ファイル名」に自動でリネームされて X-point 上に保管されます。
X-point のユーザ固有マスタインポート バッチ登録画面で指定した「文字コード」で保存された CSV ファイルを使用してください。

【実行例】

※ ファイルやパス Windows を前提としています。Linux の場合は適宜読み替えてください。

・ 「マスタ：担当者マスタ」の取込ファイルとして、CSV(C:¥xpclient¥example.csv)をアップロードし、既にファイルが存在する場合は上書きする。
run_master_imp.bat -target "担当者マスタ" -file C:¥xpclient¥example.csv -overwrite 1

■　ユーザ

【実行ファイル】
run_user_imp.bat(sh)

【引数】

<table>
<tr><th>引数名</th><th>必須</th><th>説明</th><th>指定例</th></tr>
<tr><td>target</td><td>○</td><td>・アップロードする情報(ユーザ/グループ/役職など)の種別コードを指定します。
<table>
<tr><th>アップロード情報</th><th>コード</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>ユーザ</td><td>user</td><td></td></tr>
<tr><td>グループ</td><td>group</td><td></td></tr>
<tr><td>役職</td><td>part</td><td></td></tr>
<tr><td>ユーザグループ</td><td>usergroup</td><td>サイボウズガルーン用</td></tr>
<tr><td>ロール</td><td>role</td><td>サイボウズガルーン用</td></tr>
<tr><td>ユーザロール</td><td>userrole</td><td>サイボウズガルーン用</td></tr>
</table></td><td>-target user</td></tr>
<tr><td>file</td><td>○</td><td>・アップロードする CSV ファイルのパスを指定します。</td><td>(Linux)
-file /home/xpclient/user.csv

(Windows)
-file C:¥xpclient¥user.csv</td></tr>
<tr><td>overwrite</td><td></td><td>・アップロード先に同名のファイルが存在する場合の動作を指定します。
「0」...上書きしない
「1」...上書きする
・未指定の場合は「0」で動作します。</td><td>-overwrite 1</td></tr>
</table>

※1 ： アップロードした CSV は X-point のユーザインポートバッチ登録画面で指定した各種「ファイル名」に自動でリネームされて X-point 上に保管されます。
X-point のユーザインポートバッチ登録画面で指定した「文字コード」で保存された CSV ファイルを使用してください。

【実行例】

※ ファイルやパス Windows を前提としています。Linux の場合は適宜読み替えてください。

・　ユーザインポートの取込ファイルとして、CSV(C:¥xpclient¥user.csv)をアップロードし、既にファイルが存在する場合は上書きする。
run_user_imp.bat -target user -file C:¥xpclient¥user.csv -overwrite 1

6.5.2. リモート出力機能

■ クエリ

【実行ファイル】
run_query.bat(sh)

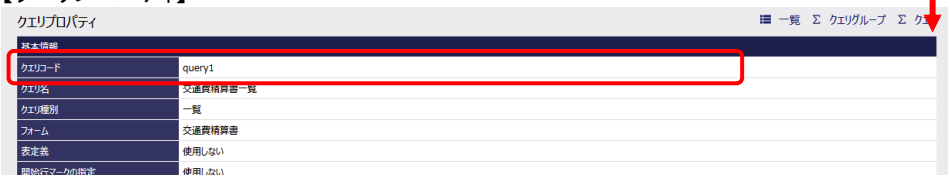
【引数】

引数名	必須	説明	指定例
target	○	・出力するクエリのコード（※3）を指定します。 ・一括で出力する場合は「[*]」を指定します。	-target query001 -target [*]
dir	○	・ファイルの出力先パスを指定します。 ・ディレクトリが存在しない場合は出力時に自動で作成されます。	(Linux) -dir /home/xpclient/out (Windows) -dir C:¥xpclient
file	△（※2）	・出力ファイルの名称を指定します。但し、target に「[*]」を指定した 場合は適用されません。 ・未指定や target が「[*]」の場合は X-point のクエリ設定の 「CSV ファイル名」が適用されます。	-file query001.csv
exists		・出力先に同名のファイルが存在する場合の動作を指定します。 「0」…出力しない(※2) 「1」…上書きする 「{移動先パス}」… 同名のファイルを{移動先パス}に移動する ・未指定の場合は「1」で動作します。	-exists 0 -exists 1 -exists /home/xpclient/out/old
title(※1)		・タイトル行の有無を指定します。 「0」…無 「1」…有 ・未指定の場合は「1」で動作します。	-title 0
none		・クエリの実行結果が 0 件の場合の出力する/しないを指定します。 「0」…出力しない 「1」…出力する ・未指定の場合は「0」で動作します。	-none 1
charset		・出力するファイルの文字コードを指定します。 「1」..SJIS 「2」..UTF-8 ・未指定の場合は「1」で動作します。	-charset 2

※1 ： title はクエリ種別が「一覧」のクエリに対してのみ有効です。「サマリ」や「クロス集計」の場合は常にタイトルが表示されます。
ただし、「サマリ」や「クロス集計」は Web 画面からの実行と同じで集計対象の書類が存在しない場合は何も表示されません。
※2 ： exists に「0」を指定する場合、file の指定は必須になります。
※3 ： クエリコードは、管理者サイト＞クエリ管理＞クエリ一覧＞クエリプロパティ画面から確認することができます。

【クエリ一覧】

【クエリプロパティ】



【実行例】

※ ファイルやパス Windows を前提としています。Linux の場合は適宜読み替えてください。

- コードが query1 のクエリを C:¥remote¥out に query.csv というファイル名で出力する
  run_query.bat -target query1 -dir C:¥remote¥out -file query.csv

- 出力可能なクエリを「**全て**」出力する
  run_query.bat **-target [*]** -dir C:¥remote¥out

- C:¥remote¥out に query.csv というファイル名が**存在していた場合は C:¥remote¥out¥old に退避**してから出力する
  run_query.bat -target query1 -dir C:¥remote¥out -file query.csv **-exists C:¥remote¥out¥old**

- 一覧クエリの検索結果が **0 件の場合も**タイトル行だけのファイルを**出力する**
  run_query.bat -target query1 -dir C:¥remote¥out -file query.csv -**none 1**

■　マスタ

【実行ファイル】
run_master_exp.bat(sh)

【引数】

引数名	必須	説明	指定例
target	○	・出力するマスタのテーブル名を指定します。	-target product_mst
dir	○	・ファイルの出力先パスを指定します。 ・ディレクトリが存在しない場合は出力時に自動で作成されます。	(Linux)　　-dir /home/xpclient/out (Windows) -dir C:¥xpclient
file		・出力ファイルの名称を指定します。 ・未指定の場合は「{テーブル名}.csv」で出力されます。	-file product_mst.csv
exists		・出力先に同名のファイルが存在する場合の動作を指定します。 「0」...上書きしない 「1」...上書きする 「{移動先パス}」... 同名のファイルを{移動先パス}に移動する ・未指定の場合は「1」で動作します。	-exists 0 -exists 1 -exists /home/xpclient/out/old
title		・タイトル行の有無を指定します。 「0」...無 「1」...有 ・未指定の場合は「1」で動作します。	-title 0
none		・マスタレコードが 0 件の場合の出力する/しないを指定します。 「0」...出力しない 「1」...出力する ・未指定の場合は「0」で動作します。	-none 1
charset		・出力するファイルの文字コードを指定します。 「1」..SJIS 「2」..UTF-8 ・未指定の場合は「1」で動作します。	-charset 2

【実行例】

※ ファイルやパス Windows を前提としています。Linux の場合は適宜読み替えてください。

・　「テーブル名：product_mst」のレコードを C:¥remote¥out に product_mst1.csv というファイル名で出力する
run_master_exp.bat -target product_mst -dir C:¥remote¥out -file product_mst1.csv

■　ユーザ

【実行ファイル】
run_user_exp.bat(sh)

【引数】

引数名	必須	説明	指定例
target	○	・出力するユーザ情報を下記のコードで指定します。 「user」...ユーザ 「group」...ユーザグループ 「part」...役職 ・一括で出力する場合は「[*]」を指定します。	-target user -target [*]
dir	○	・ファイルの出力先パスを指定します。 ・ディレクトリが存在しない場合は出力時に自動で作成されます。	(Linux)　　-dir /home/xpclient/out (Windows) -dir C:¥xpclient
file		・出力ファイルの名称を指定します。 ・target に「[*]」を指定した場合は「, 」で区切って個別に指定することができます。(指定順：ユーザ，ユーザグループ，役職) ・未指定の場合は「{コード}.csv」で出力されます。	-file user1.csv -file user1.csv,group1.csv,part1.csv
exists		・出力先に同名のファイルが存在する場合の動作を指定します。 「0」...上書きしない 「1」...上書きする 「{移動先パス}」... 同名のファイルを{移動先パス}に移動する ・未指定の場合は「1」で動作します。	-exists 0 -exists 1 -exists /home/xpclient/out/old
title		・タイトル行の有無を指定します。 「0」...無 「1」...有 ・未指定の場合は「1」で動作します。	-title 0
none		・ユーザ情報のレコード件数が 0 件の場合の出力する/しないを指定します。 「0」...出力しない 「1」...出力する ・未指定の場合は「0」で動作します。	-none 1
charset		・出力するファイルの文字コードを指定します。 「1」..SJIS 「2」..UTF-8 ・未指定の場合は「1」で動作します。	-charset 2

【実行例】

※ ファイルやパス Windows を前提としています。Linux の場合は適宜読み替えてください。

・　ユーザを C:¥remote¥out に user1.csv というファイル名で出力する
run_user_exp.bat -target group -dir C:¥remote¥out -file user1.csv

・　**「ユーザ/ユーザグループ/所属情報」を一括**で出力する
run_user_exp.bat **-target [*]** -dir C:¥remote¥out

・　「ユーザ/ユーザグループ/所属情報」を一括出力し、**それぞれのファイル名を「user1.csv/group1.csv/part1.csv」とする**
run_user_exp.bat -target [*] -dir C:¥remote¥out **-file user1.csv,group1.csv,part1.csv**

■ 承認完了書類 PDF

【実行ファイル】
run_pdfout.bat(sh)

【引数】

引数名	必須	説明	指定例
formcd		・出力する PDF 保存ファイルを書類のフォームコードで絞り込む場合に指定します。 ・”,”で区切ることで、複数のフォームコードを指定することができます。	-formcd form1 -formcd form1,form2
docid		・出力する PDF 保存ファイルを書類 NO で絞り込む場合に指定します。 ・”-”を挟むことで範囲指定できます。	-docid 100 -docid 300-400
completed		・出力する PDF 保存ファイルを書類の承認完了日で絞り込む場合に指定します。 ・”-”を挟むことで範囲指定できます。	- completed 2018/01/08 - completed 2017/01/01-2017/12/31
dir	○	・ファイルの出力先パスを指定します。 ・ディレクトリが存在しない場合は出力時に自動で作成されます。	(Linux) -dir /home/xpclient/out (Windows) -dir C:¥xpclient
remove		・出力後にサーバー上の保存 PDF と関連ファイルを削除するかを指定します。 「0」…削除しない 「1」…削除する ・未指定の場合は「0」で動作します。	-remove 0
index		・索引ファイルを出力する/しないを指定します。 「0」…出力しない 「1」…出力する ・未指定の場合は「1」で動作します。	-index 0

【実行例】

※ ファイルやパス Windows を前提としています。Linux の場合は適宜読み替えてください。

・ 2017/1/1～201712/31 の期間に承認完了した書類の PDF を C:¥remote¥out に出力し、サーバー上から該当ファイルを削除する
run_pdfout.bat -completed 2017/01/01-2017/12/31 -dir C:¥remote¥out -remove 1

！注意事項

- 「承認完了書類 PDF」のダウンロードには、「承認完了書類書類外部出力オプション」が必要です。
  該当オプションの機能については、マニュアル『承認完了書類外部出力オプション 導入・設定ガイド』を参照してください。
- 「承認完了書類 PDF」のダウンロードは、クラスタ構成の X-point 環境には対応しておりません。
- X-point の管理者サイト→ドメイン設定→承認完了書類外部出力オプションの設定で
  PDF ファイルの「ファイル名」、「ファイル保存先」、「フォルダ構成」を変更した場合、変更前の保存パスに出力されたファイルはダウンロード出来なくなります。
- 承認状況が「承認完了」の書類のファイルのみダウンロードが可能です。

6.6. 実行結果の確認

6.6.1. 実行履歴ログ

リモート入出力の実行履歴は、実行した外部環境のログ・ファイルに記録されます。

項目	仕様	備考
出力先	xpoint-client/log	
ファイル名	remote.yyyyMM.log	(例) remote.201501.log
ローテーション	月単位	ログ出力のタイミングでローテーションが動作します。
出力内容	・実行日時 ・成功/失敗 ・引数 ・接続情報 ・ファイル情報	エラーが発生した場合は失敗原因が出力されるため、複数行になります。

▼成功時の出力例

```
2014/09/22 17:17:16:065 INFO - [成功] [ユーザ](引数) -target [*] -dir C:¥remote¥out -file user1.csv,group1.csv,part1.csv test -exists C:¥xpoint_develop¥_remote¥exists (接続情報) -URL http://example.com/xpoint -接続ドメイン su -接続ユーザ admin (ファイル) -出力ファイル C:¥remote¥out¥user1.csv -移動ファイル C:¥remote¥ out¥old¥user1.csv.20140922171715
```

▼失敗時の出力例

```
2014/09/22 17:52:44:220 ERROR - [失敗] [ユーザ](引数) -target [*] -dir C:¥remote¥out -file user1.csv,group1.csv,part1.csv test (接続情報) -接続ドメイン su -接続ユーザ admin
ディレクトリの書き込みチェックエラー.書き込み権限がありません.アクセスが拒否されました。C:¥
・・・
```

失敗した場合は、実行履歴ログに出力される原因を解決します。
【主な失敗原因】

原因	メッセージ例	対応方法
外部環境のファイルシステムへの書き込みができない	書き込み権限がありません.アクセスが拒否されました	メッセージに表示されるディレクトリやファイルに対して、実行ユーザが書き込み可能となる状態にします。
接続設定ファイルや実行引数の**指定方法**が間違っている	入力エラー.コマンド引数や接続設定ファイルの設定値が正しく指定されているか確認してください	必須項目が指定されていない。引数の組み合わせが正しくない可能性があります。メッセージ従って接続設定ファイルや引数を改善します。
接続設定ファイルや実行引数の**指定内容**が間違っている	サーバーからエラーが返却されました..	接続ユーザが X-point に存在しない。出力対象のデータが存在しない等の可能性があります。メッセージ従って指定内容を修正します。
指定した URL でアクセスできない	通信エラー. 指定されたホスト名が解決できません.	URL の書式が正しくない。ホスト名が DNS 解決できない。X-point サーバーや中継機器に接続が拒否された等の可能性があります。メッセージを参考に URL の修正やネットワーク設定を改善します。

6.6.2. 実行ファイルの終了ステータス

実行ファイルは、以下の値を終了ステータスとして返却します。

成功	0
失敗	1

【確認例：Windows】

```
>call run_query.bat -target query1 -dir C:¥remote¥out
>echo %errorlevel%
0
```

【確認例：Linux】

```
#./run_query.sh -target query1 -dir /home/remote/out
#echo $?
0
```

6.6.3. タスクログ

X-point のタスクログにはサーバー側の実行結果が出力されます。
タスクログは管理者サイト＞クエリ管理＞タスクログをクリックして画面を表示させます。
タスクログの詳細につきましては管理者マニュアルの「タスクログ」の章を参照下さい。

【タスクログ】

※ 画面は「クエリ」の処理結果のログ画面です。マスタ、ユーザの出力処理の結果を確認するためには、
それぞれ「実行タスク」を「固有マスタエクスポート」「ユーザエクスポート」に切り替えます。

！注意事項

- 外部環境からリモート出力を実行し、ネットワーク障害等の発生により X-ponit に処理が到達しなかった場合や、ユーザ認証に失敗した場合などは、タスクログは記録されません。
- 「タスクログ」はサーバー側の処理結果を確認するためのログです。リモート出力の最終的な「成功」「失敗」は、外部環境側に出力される「実行履歴ログ」から確認してください。

7. 制限事項

7.1.1. 大量のレコードの入出力

外部環境と X-point 間のネットワーク上に位置する中継機器や WEB サーバーのタイムアウトが発生する場合、リモート入出力に失敗します。本機能はレコード数が数十万件に及ぶような大量のレコードを一度に入出力するようなケースにはご利用いただけません。

クエリの場合、従来の「クエリ CSV 自動出力」機能をご利用いただくと、タイムアウトに関わらず CSV を出力することができます。
※ ただし、外部環境に直接CSVをダウンロードすることはできません。詳細は『管理者マニュアル クエリCSV 自動出力』をご参照ください。

7.1.2. 同時実行の制限

同じ入出力情報(クエリ/マスタ/ユーザなど)の処理を同時に実行することはできません。
同じ入出力情報を同時実行しないように実行間隔を調整してください。

例）
▼エラーになる場合
・X-point 上で「**クエリ**」のリモート出力処理が実行中に、続けて「**クエリ**」のリモート出力を実行した場合。

▼エラーにならない場合
・X-point 上で「**マスタ**」のリモート出力処理が実行中に、続けて「**クエリ**」のリモート出力を実行した場合、
出力情報が異なるため後者は「エラー」になりません。

7.1.3. クライアント証明書による SSL 通信

本機能はクライアント証明書による SSL 通信には対応しておりません。

8. その他

8. 1. クエリの CSV ファイル出力済み管理

CSV ファイル出力済管理の機能を利用すると、一覧クエリの CSV ファイルの出力で、過去に出力した書類を何度も出力させないようにすることが可能です。

8.1.1. 利用開始方法

本書の『事前準備＞クエリの設定 2)』をご参照ください。

8.1.2. CSV 出力済み書類の確認方法

【クエリ CSV ファイル出力済み一覧】画面から CSV 出力が行われた書類を検索、閲覧することができます。

1) 管理者サイト＞クエリ管理＞一覧で、対象のクエリのプロパティ画面に遷移します。

【クエリ一覧】

【クエリプロパティ】

2) クエリプロパティの「CSV ファイル出力済み管理」に表示される「CSV ファイル出力済み一覧」のリンクをクリックします。

【クエリプロパティ画面の一部】

・ ユーザサイトから見たプロパティ画面では、リンクは表示されません。

3)　検索条件を任意に指定の上、[検索]ボタンをクリックして出力済み書類を一覧表示します。

【クエリ CSV ファイル出力済み一覧】

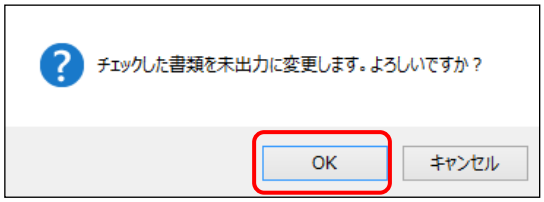
8.1.3.　CSV 出力済み書類を未出力に戻す方法

【クエリ CSV ファイル出力済み一覧】画面から CSV 出力が行われた書類を「出力済み」→「未出力」に更新することができます。

1)　【クエリ CSV ファイル出力済み一覧】より該当の書類を検索し表示させます。

2)　「未出力」にする書類のチェックボックスをチェックし、左側のセレクトボックスから「未出力にする」を選択し処理を実行します。

3)　実行時に、確認のアラートメッセージが表示されます。続行する場合は[OK]をクリックします。



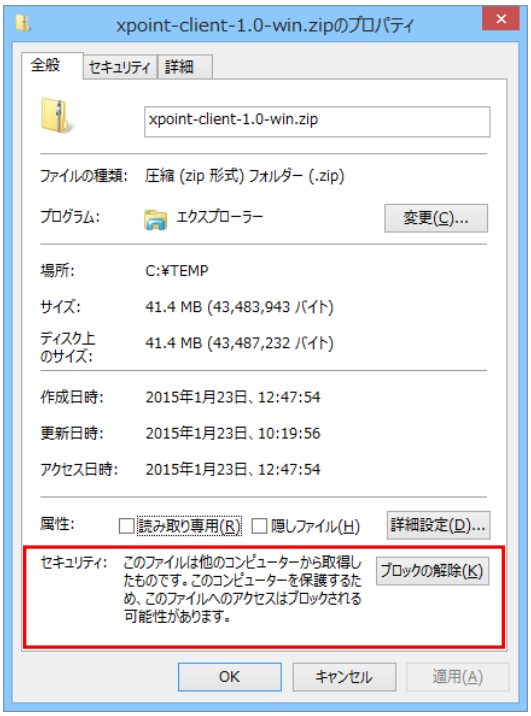
8. 2. ZoneID の解除

Windows 環境においては、インターネットよりファイルをダウンロードすると“ZoneID”と呼ばれる印が自動的に付加されます。
“ZoneID”が付加されたファイルを実行するとセキュリティ警告が表示されますがバッチ処理にて実行する処理においては警告に対して対話的に応答できないためファイルを実行することができません。
サポートサイトからダウンロードできる「リモート入出力機能用クライアントスクリプト(リモート入出力バッチ)」もこれに該当しますので、必ず以下の手順にて“ZoneID”の解除を行ってください。

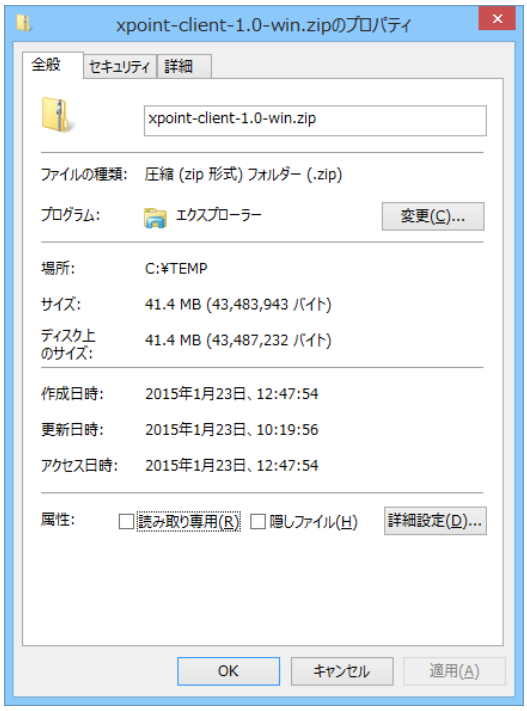
1) ZIP ファイルを右クリックして、プロパティを開く。
2) [ブロック解除]ボタンが押せるようになっていたら押下する。
3) [OK]を押下する。

再度プロパティ画面を開くとセキュリティ項目の表示がなくなっています。

（解除前）



（解除後）



9. 困ったときは

リモート入出力機能の利用に関する問題解決の参考となる情報について説明します。

9.1. クエリの出力で前回失敗した分の書類のレコードが CSV に含まれない

- 「CSV 出力済み管理」を利用する一覧クエリのリモート出力を実行した場合、X-point 側で出力対象の書類が「出力済み」となります。その後の処理で CSV ファイルの出力に失敗した場合、次回からの CSV には失敗した分の書類が含まれません。
- X-point 側の管理が「出力済み」になっていることが原因のため、X-point の管理画面から該当クエリが実行されて「出力済み」となった書類を「未出力」で更新します。
  （操作方法は本書の『CSV 出力済み書類を未出力に戻す方法』を参照してください）

■改訂履歴

改版	改版内容
2021 年 4 月 1 日版	初版
2021 年 9 月 15 日	アップロードファイルのサイズ制限について
2022 年 7 月 13 日	「1.3.1.実行可能な外部環境の OS」に”Windows11”を追加
2023 年 4 月 1 日	「4.1.接続ユーザ」、「5.1.X-point で実施する作業」、「6.2.接続設定」、「6.5.実行ファイルと引数の指定」 クラウド版で考慮が不要な”スーパーユーザ”に関する記載を削除
2023 年 9 月 27 日	[3.1.1.クエリ]のクエリ出力の該当説明に、バッチ実行のタイミングでクエリ検索が実行される旨を追記
2024 年 9 月 12 日	対応環境の Linux 系 OS は x86_64 用である事を追記
2024 年 11 月 11 日	「1.3.1 実行可能な外部環境の OS」に Windows Server 2022、Red hat Enterprise Linux 9、Amazon Linux 2023 を追加。 Windows 8.1 対応記載を削除
2024 年 11 月 26 日	「1.3.1 実行可能な外部環境の OS」に Windows Server 2025 を追加。
2025 年 9 月 1 日	「6.5.1.リモート入力機能」 ■自動申請／マスタ／ユーザ ※1の説明文に、X-point で事前に指定した文字コードで保存された CSV ファイルを使用する旨を追加 「6.5.2.リモート出力機能」 ■クエリ／マスタ／ユーザ 引数に文字コード「charset」を追加
2025 年 10 月 30 日	「6.2.接続設定」の XPOINT_URL の初期値を改善 http://example.com/xpoint → https://example.atledcloud.jp/xpoint _
2026 年 2 月 2 日	「1.3.1.実行可能な外部環境の OS」から「Windows Server 2012 R2、Windows 10（64bit）」を削除
2026 年 7 月 14 日	「3.2.1. クエリ、マスタ、ユーザ」の「③新規ファイルを出力する」の例として表示しているファイル名の誤記を修正